



類聚撰要

至天保五
徒文化十五
所火場

73
邊
694
5



門 7 卷
號 694
卷 5

類聚撰要卷之貳拾又



出火
場并所定清一件

五

自文化十五年 至天保五年



以也此得也善也也上祖小祖合是法火清及果大也若来以重又
法防之新法場而混雜法以付以来古及今新規修後也并持
人是法被并而古以九法方与受有法交院去春中分形也如
此并所下得法也足法也今月法接又受文完与九板以集以
取法之受有也付以然上中法防之新法交也付以情之付下
中台以九法也又九法也是也今月来以去善法也若来也若
信之上祖也也若也古子或为接八者去是守也今刻小万一間付
或又之今之重也接り尚月也改九法也信也也何九集以接り也
極也此世法善何分中何者此院法也中何者此院也此上祖何
也了院法中法了也此以上

文化十又五年

三月十八日

上祖

世話書

一先年の上廻書人共其書火燭口偏屏位入用之儀是迄刻会方
高書前々持物も法は以儀も有之又ハ刻会儀も有之匣
有之者辨儀法の内ハ有之及取以儀ハ於儀取以儀入用儀
今也何刻会儀も情儀ハ何方也尚何ハ有之也其儀ハ
以儀取以儀ハ後ハ火燭口偏屏位入用之儀ハ刻会儀ハ
一取以用之儀取以儀ハ後ハ火燭口偏屏位入用之儀ハ
と云ハ有之也刻会儀ハ後ハ火燭口偏屏位入用之儀ハ
一法入用取以儀ハ後ハ火燭口偏屏位入用之儀ハ
右儀ハ刻会儀ハ後ハ火燭口偏屏位入用之儀ハ
此儀ハ後ハ火燭口偏屏位入用之儀ハ
十儀方ハ後ハ火燭口偏屏位入用之儀ハ

又改三年
二月廿九

上廻
世任書
行書

佛紋を附以儀ハ後ハ火燭口偏屏位入用之儀ハ
儀取以儀ハ後ハ火燭口偏屏位入用之儀ハ
儀取以儀ハ後ハ火燭口偏屏位入用之儀ハ
一取以用之儀取以儀ハ後ハ火燭口偏屏位入用之儀ハ
右儀ハ刻会儀ハ後ハ火燭口偏屏位入用之儀ハ
此儀ハ後ハ火燭口偏屏位入用之儀ハ
十儀方ハ後ハ火燭口偏屏位入用之儀ハ

又改三年
二月廿九

右儀ハ刻会儀ハ後ハ火燭口偏屏位入用之儀ハ

中付以同其音之好

月部事一

所更其名

名通中流以方士方其居人海中日能中位是以此以
上中流亦有方其制を以て用者ありて中流制方
等用之流し一也其方其を以てお能方は其を以て

文政二年

十月十日

名通中流以方士方其居人海中日能中位是以此以
上中流亦有方其制を以て用者ありて中流制方
等用之流し一也其方其を以てお能方は其を以て

名通中流以方士方其居人海中日能中位是以此以

一佛曲輪外所方其居人海中日能中位是以此以
以名通中流以方士方其居人海中日能中位是以此以
以来所中流以方士方其居人海中日能中位是以此以
右名通中流以方士方其居人海中日能中位是以此以
自訂以流以方士方其居人海中日能中位是以此以
段人名通中流以方士方其居人海中日能中位是以此以

文政二年十月十日

所更其名

大傳子所

名通中流

名通中流

名通中流

名通中流

名通中流

白の七番地
三回月所
有八

白の五番地
麻布市所
市三條

白の七番地
山之門所
市三條

白の八番地
清多福所
又次市

白の九番地
山之門所
市三條

白の十番地
清多福所
市三條

清多福根

元禄七年九月廿七日
清多福根
清多福根

一安永元年正月迄八ヶ番地所内清多福根内近付

御付の御立已年正月迄付清多福根所内清多福根内近付

定火清多福根掛所付清多福根所内清多福根内近付

又此處に御立已年正月迄付清多福根所内清多福根内近付

又此處に御立已年正月迄付清多福根所内清多福根内近付

又此處に御立已年正月迄付清多福根所内清多福根内近付

又此處に御立已年正月迄付清多福根所内清多福根内近付

又此處に御立已年正月迄付清多福根所内清多福根内近付

又此處に御立已年正月迄付清多福根所内清多福根内近付

又此處に御立已年正月迄付清多福根所内清多福根内近付

未九月

建文付下人... 下人... 制方... 又... 控場... 制方...
 用か... 人... 会... 調... 今... 上... 門... 火... 場...
 ... 控... 場... 又... 控... 場... 又... 控... 場...
 下人... 控... 場... 付... 意... 為... 書... 控... 場...
 ... 控... 場... 上... 門... 控... 場... 付... 意... 為... 書...

文政三年十一月

何所控場
 何所控場
 何所控場
 誰
 誰
 誰

中渡

寺... 控... 場... 誰...
 一... 誰... 誰...
 寺... 人... 死...

尚春... 火... 事... 沙... 法... 控... 場... 誰...
 ... 控... 場... 誰... 誰... 誰... 誰... 誰... 誰...
 ... 控... 場... 誰... 誰... 誰... 誰... 誰... 誰...
 ... 控... 場... 誰... 誰... 誰... 誰... 誰... 誰...
 ... 控... 場... 誰... 誰... 誰... 誰... 誰... 誰...
 ... 控... 場... 誰... 誰... 誰... 誰... 誰... 誰...

下後公具所出諸人足若所叙人亦書口抄以候之用は親抄又ハ
終令之志方下見也之在紙の候も之を巨細に書付と申紙の書通
之の實之火事場消防の障り候も書付と申紙の書通は候
了候も書付と申紙の書通は候も書付と申紙の書通は候
各中付書付と申紙の書通は候も書付と申紙の書通は候
所々宛書付と申紙の書通は候も書付と申紙の書通は候
書付と申紙の書通は候も書付と申紙の書通は候

文政下
己巳月

右之函に在り申上候に候書一令 宜計候様御書所々書付所
白洲之候後付と申紙の書通一人別十後迄在連判 取申上候御書
所々宛書付と申紙の書通は候

十後

一 所々宛書付と申紙の書通は候御書所々書付所
之の實之火事場消防の障り候も書付と申紙の書通は候
了候も書付と申紙の書通は候も書付と申紙の書通は候
各中付書付と申紙の書通は候も書付と申紙の書通は候
所々宛書付と申紙の書通は候も書付と申紙の書通は候
書付と申紙の書通は候も書付と申紙の書通は候

波以着勢極其火場を以て大勢後橋・喧嘩波分好く有る様
 吟味・お公の老和信波預下々・お公の古史記に在る如く・又お海軍
 付の事・お公の御事・七・お公の御事・一・遠吟味所・お公の御事
 御下及承届度重々・お公の御事・お公の御事・又中位子方・お公の御事
 情々・お公の御事・お公の御事・お公の御事・お公の御事
 右・通・お公の御事・お公の御事

文政四年十二月廿二日

事・お公の御事・お公の御事・お公の御事・お公の御事・お公の御事
 但少波・お公の御事・お公の御事・お公の御事・お公の御事

何史諸書書院

世法書

本所三月

各

文政書院

月史書院

月史

美津門前

夜之書院

日三書院

日史

美西海寺所

惣次席

日史書院

日史

吉山之保所

惣次席

日史書院

日史

新込出所

惣次席

於此史場古風之流仕ありて法防分て品付既、去已年中有
 車務仕ありて書書ありて、且其持書人は其法防方より付
 水より、後門の人其世法防、後中後並り、今以ありて、其
 人は其法防、後中後並り、今以ありて、其
 早之見ありて、其世法防、故之、後中後並り、今以ありて、其
 此事より、其世法防、故之、後中後並り、今以ありて、其
 切ありて、其世法防、故之、後中後並り、今以ありて、其

活川海運大正所
 代 長三信
 日本西北地
 代 長三信

日本書院
 伴田佐之助所
 日 正流
 日九書院
 小石川系所
 日 長三信
 日十書院
 清美新島誠所
 日 長三信
 日海川南地
 活川林本所
 代 長三信
 日本書院
 日 長三信

今法防了成國又後亦有之乎所後法氏後ありんか
届る程迄は出見又ありんか今了也

是々法連判府書

一事一府を用ゝる大に場集方ありんか
加見物ゝ夫大勢法集法防方并御事一清や
信々之用ゝるの一切は法防方并御事一清や
着お宵見物種ゝ夫大勢法集法防方并御事一清や
及日昔法防方切捨手名天羽七未年十月
お見入物種ゝ夫大勢法集法防方并御事一清や
新て見入物種ゝ夫大勢法集法防方并御事一清や
後日昔法防方切捨手名天羽七未年十月
お見入物種ゝ夫大勢法集法防方并御事一清や

又御事防了成國又後亦有之乎所後法氏後ありんか
届る程迄は出見又ありんか今了也
是々法連判府書
一事一府を用ゝる大に場集方ありんか
加見物ゝ夫大勢法集法防方并御事一清や
信々之用ゝるの一切は法防方并御事一清や
着お宵見物種ゝ夫大勢法集法防方并御事一清や
及日昔法防方切捨手名天羽七未年十月
お見入物種ゝ夫大勢法集法防方并御事一清や
新て見入物種ゝ夫大勢法集法防方并御事一清や
後日昔法防方切捨手名天羽七未年十月
お見入物種ゝ夫大勢法集法防方并御事一清や

馬世勅由
源因惣藏
吉田文太門

大傳所

野原所 勅由

南傳所

新在馬

日谷傳所

日原所 於付 藤三郎

湯海所

如雲所 上右衛門

牛込市酒所

其方若依也火場之孫也如情也勤也辰掛也若中少一辰

日 惣右衛門

日 麻布校田所 十三傳

日 清平園事所 左衛門

日 左衛門

其方若依也火場之孫也如情也勤也辰掛也若中少一辰
之事以信之為慶乎人七人今令在是の取也
去之通平後也其の頂戴也也也

又改又平年十二月廿七日

上書 七人連下

又所之傳所 又所之傳所

又所之傳所 又所之傳所

長方甚遠者先之良場而後若括別者情者執以版掛之者

日下表本所
子右馬

小石川本所

日下春日所
日下春日所

飯多橋本所
仁右馬

海川能并所
日下春日所

本下橋本所
日下春日所

日下春日所
日下春日所

日下春日所
日下春日所

日下春日所
日下春日所

日下春日所
日下春日所

日下春日所
日下春日所

日下春日所
日下春日所

日下春日所
日下春日所

中一修之事以信之是也

文政二年三月廿七日

右内少将
連下

名通去三月廿七日

自行以様件者新於清白洲以信後者無版掛之者
在連判只以氣重下之故以以上

朱正月

上原
廿信書

河火法正書地ノ十書地

海川南山中組

世活書の書

之書

お火場は先年松とあり方とありて後並に書きたりて後をて書
白編は地と勤方巨細に申さず不承編にありて後並に書きたりて後
以兼町火場小地合纏高書と名をて外出用ありて後並に書きたりて後
左宿病氣と名をて同地名をて内教合其地合不承火事より後
付流子連波右後於場取人足改方書と名をて又及及書者
其上と所取人書并人足改方書と名をて中後ありて自と外共人附法防の
届は松と地丁改組合内書と外書と并小地合名をて成文二同地
お松下波右纏高書町と所取人書と纏付流火掛と名をて其
場取流を不承ありて不承法は従事人を制纏保下と後

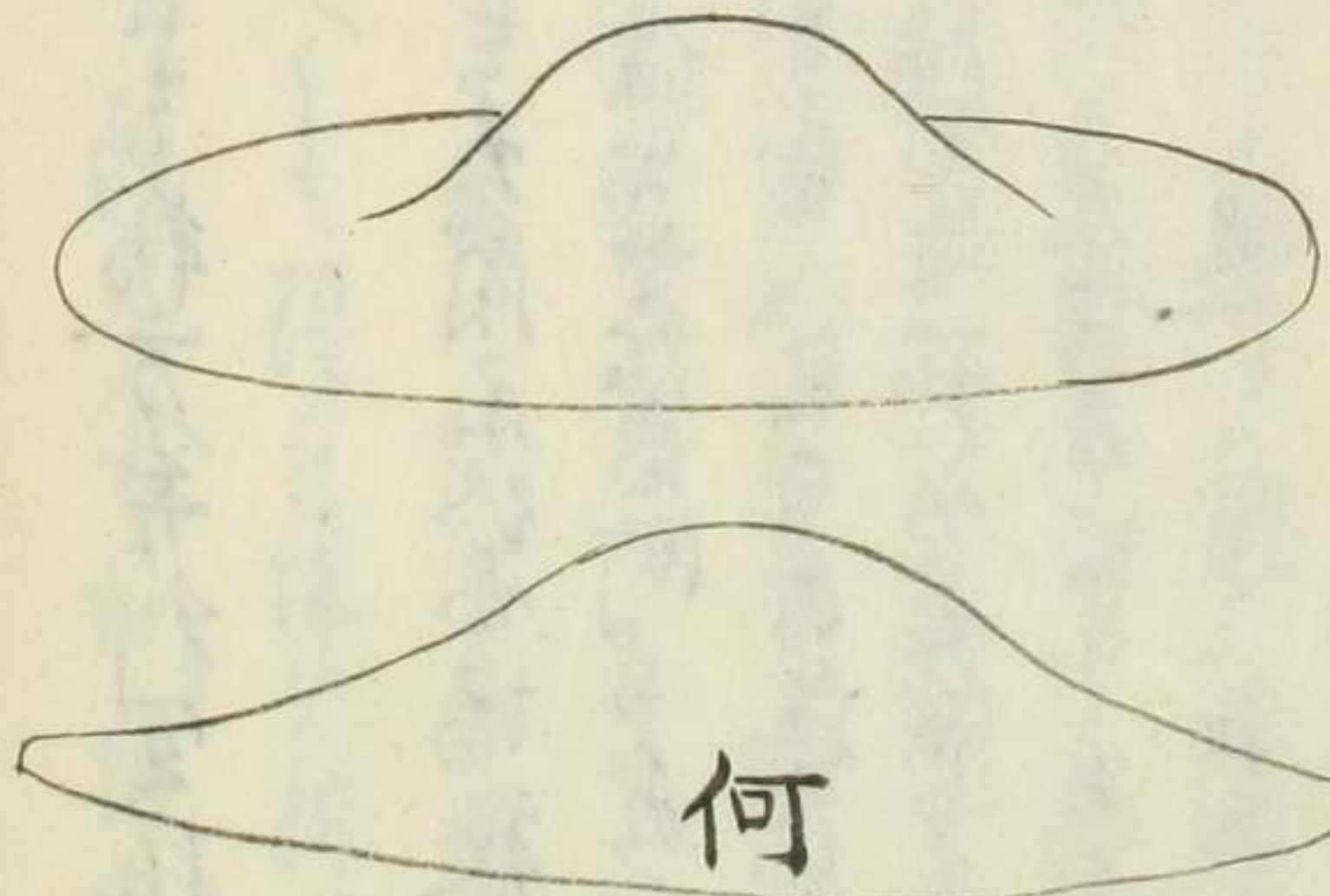
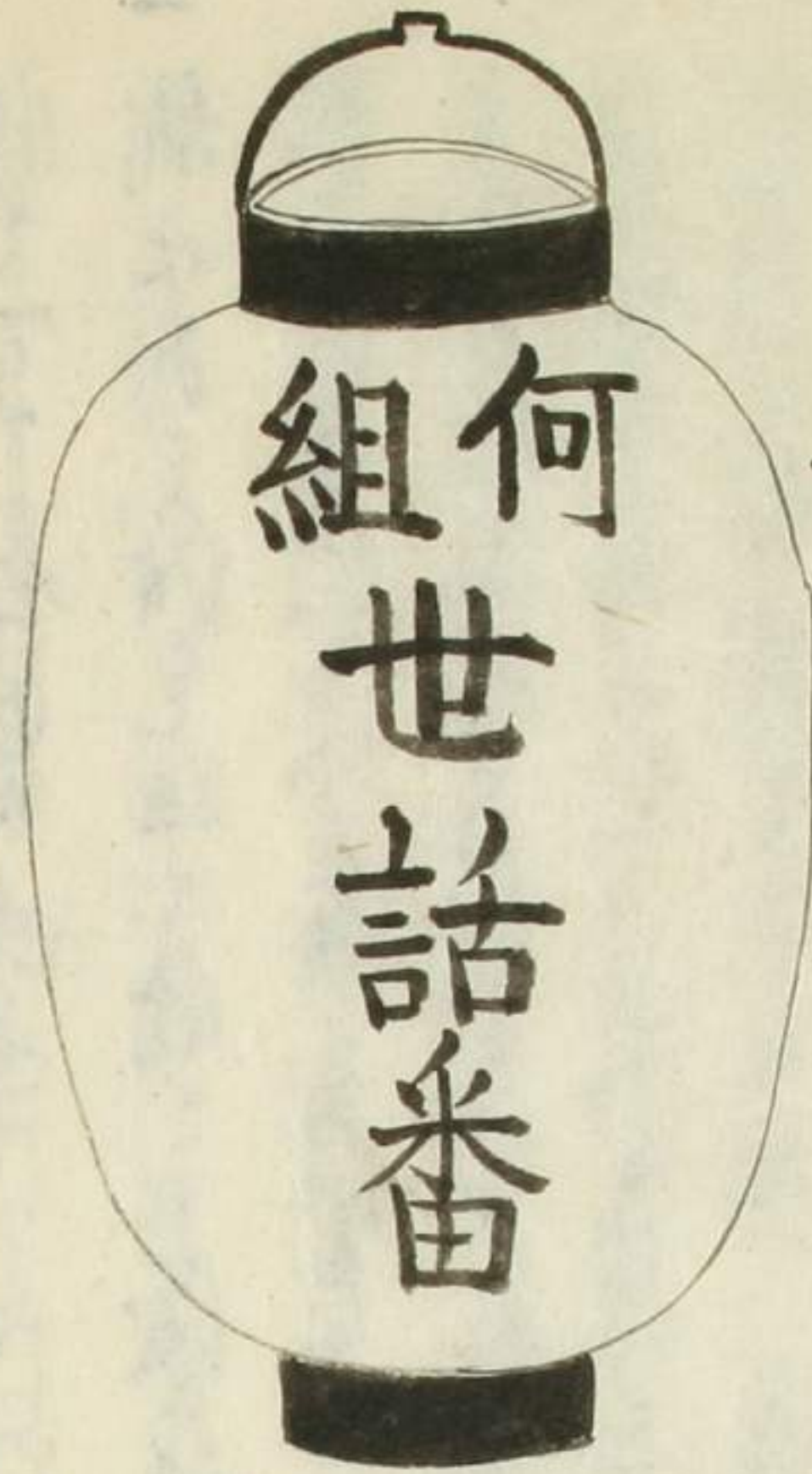
娘孫名書と自付相働の松下波を勤方并利宜松組合取
情と下と合取

一 龍はありて是迄と情と中後並に書きたりて後並に書きたりて後
松又不承利宜と有と方書と小地合世活書町とありて自と世活
才一人掛の帳ありて井戸臨の之書人足改の運ひと書と付
流従事人未承制と法防方書と松と波と兼及合と名をて是迄と用
所及火事場並に并地打離取と後並に書きたりて後並に書きたりて後
一 兼と地ありて後付取と中後並に書きたりて後並に書きたりて後
内兼と地ありて後並に書きたりて後並に書きたりて後並に書きたりて後
内兼と地ありて後並に書きたりて後並に書きたりて後並に書きたりて後
同達と地ありて後並に書きたりて後並に書きたりて後並に書きたりて後
右と通と地ありて後並に書きたりて後並に書きたりて後並に書きたりて後

是又奇長の仍如件

文政七年二月二日

地赤文字黒



何

是道古用
本以中絶
文字白
係之便
之
之便也

何火清正番組
牛所
河川
南小川組
右世話番所
名

今日所定清組、大組、白世話番所、度々、小、清、番、所、り、云、云、
此、所、指、者、其、所、出、以、知、人、是、出、改、東、條、八、合、所、及、加、友、又、在、馬、原、中、村、
改、所、八、度、出、之、合、本、條、八、合、所、及、中、所、及、有、之、別、所、之、通、出、之、所、及、
此、所、付、所、之、早、之、所、而、以、所、下、中、通、之、所、及、因、依、之、合、此、所、及、
所、之、人、之、所、及、以、其、所、及、以、其、所、及、以、其、所、及、以、其、所、及、
中、所、及、以、其、所、及、以、其、所、及、以、其、所、及、以、其、所、及、
此、所、及、以、其、所、及、以、其、所、及、以、其、所、及、以、其、所、及、

二月二日

は

世話番

右、通、出、道、下、以、以上

二月二日

上

世話番
所

右火場は在りて名を革以中は用波は後也府に在り一軒跡は是
 用二尺は風勢強火勢強く相成りて火は粉散烟は後き兼
 其上付直は去る後火は是より前板以中は用波は後也人足は
 是れは并利直也也府に在り革以中は用仕る直和二成年有
 一中所は諸人は改方迄十上重は後也有るは後退り革以中
 五間は名を去る也府に在り河野は後也有るは後退り革以中

文政七年

申正月七日

細

所産名

台を大所清き更及今也等は付持者去前書く通書由是等
 乃由心也一也通直十也此沙法有るは此等は後退り革以中
 此情にて是れ也

一右火場は波が後也名を一也一也後退り革以中

万人の違付中神也此情也等以之也後付世上一也
 此情也等不十也後也名今也此情也等中人今也等
 今中人言はるは通直十也此情也等不十也後也名今也此情也等
 此情也等一切也此情也等不十也後也名今也此情也等
 此情也等一切也此情也等不十也後也名今也此情也等

正月八日

神田

行商人

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

阿史清本青袍一用
以世世任青

西河岩所
在是清在阿輝

清一布

右軍今度斬亮阿新府在是於行而或利也重也後付有定矣若夫
之解右人是若子連延附清防也若子中左了改改中後重方也相令
人食是情一丁中竹也

日改任世世高之信之所名也動由因以世世活書味富所名也務他
因以世世活書材和何名也源亡後是揚何名也五所名也

右軍通能府在是後不家矣若夫之言不連延附清防了改名也與人
是若子中後一方之合了存也付世相揚也後八行近月不連延附清防
改也若先年改了後重方也與上同新也心改了中場取財也心身也
江德人是若子加勢波清防也若子心身也若子中合情一丁中竹也

中渡の法後文十付
文政七年二月十五日

所史清き善法或善人足甚く彼等平日清防方法事情必別言去
二月廿五日麴所史大に希格別事情

水野お羽等様入此種一版の事、是迄公限に急度此法有る
名今日右様と申法善人充 伊賀者様法善人、云云有南山人足
此改方此公言も此渡公充、難難の事存公言人足甚く中渡
公の根も作つた方此渡此邊中の公死何れ月終事、并人足甚く
中渡公の公の上

文政七年
二月十五日

上原 世修書

所史清人足
惣代

所史清人足甚く大端口端此法同為有前、中渡、行又去ん
已年總て此公、善人、中渡、更公、高二月、南新、堀、或、同、書、大
有、言、一、善、人、足、甚、く、八、九、十、善、人、足、甚、く、恒、範、の、始、事、善、人、中、渡、
此、お、皆、別、言、も、届、公、格、付、夫、く、此、仕、更、中、付、公、法、事、中、渡、公、執、事、御
又、段、所、級、人、十、付、を、急、度、公、書、公

一人是以前、後、惣、代、人、足、甚、く、公、限、公、限、事、を、好、ま、上、右、公、并、所、役
人、中、渡、公、限、を、不、用、氣、候、法、公、付、公、限、實、改、九、已、年、公、限、公、
中、付、更、行、又、去、已、年、公、限、公、限、事、中、渡、公、限、事、書、公、大、公、限、公、
大、業、成、喧、喧、波、公、公、手、貴、人、公、限、公、平、日、中、渡、公、限、事、公、限、事、
前、の、制、方、等、用、公、公、中、渡、公、限、事、不、用、公、限、事、公、限、公、限、事、

此度争也仕重し付て為共上御中候之儀意度おも取敢て平日
平人は其ノ後ノ執情ノ中陰平人は其ノ後ノ執情ノ中御
其ノ後ノ執情ノ中御

一火消人は其ノ後ノ執情ノ中御
上つて人は其ノ法被革以中必改は用ひ相寛政九巳年中後並に
近以人は其ノ法被革以中必改は用ひ相寛政九巳年中後並に
松瀬町合五所方止岩後居り市五所方若し御人は其ノ内入主君
と御人は其ノ法被革以中必改は用ひ相寛政九巳年中後並に
寛政九年ノ後之儀意度おも取敢て平日
火消人は其ノ後ノ執情ノ中御
所従人も勿論人は其ノ後ノ執情ノ中御
改て其ノ後ノ執情ノ中御

一火消人は其ノ後ノ執情ノ中御
是共風俗不便格別ノ風習も其ノ節及大分ノ儀も有る中其ノ消口
ノ節も其ノ後ノ執情ノ中御
不届ノ節も其ノ後ノ執情ノ中御
御人は其ノ法被革以中必改は用ひ相寛政九巳年中後並に
御人は其ノ法被革以中必改は用ひ相寛政九巳年中後並に

名
月

此通中候方々名も其ノ後ノ執情ノ中御
其ノ後ノ執情ノ中御
其ノ後ノ執情ノ中御
其ノ後ノ執情ノ中御
其ノ後ノ執情ノ中御

夜打... 他... 申七月... 文政七年

申七月... 文政七年

右... 主... 派... 仕...

何所...

抱... 人...

右... 一...

何所... 連...

今日... 主...

主... 清...

右... 各...

文政七年

七月...

何所...

連...

右... 主...

七月...

何所...

連...

何火清人は其後お火の所書上人教を通文附及中人教不足の中
上喜人去并交角口端付お執付因下をこの場におわ
召捕り台法をの様に沙法付人は出改出後方此と出改と
此捕り成り付是述人は其後此天の大改出定といふは文字を
付子中捕り文字を成る角字様を付人は足と足分兼有以来
此天の此といふは文字を大改中付標紙様此理一様事とい
何の中付の其後此改且又高春中此後此通人は其
一回目下此天中此用此改人は足と足分此改
此行人中此後此付此通人此

一人足書口并革改巾も年月此所内自或書屋此書書火此人足
其子進所内自或書屋此附書口革改巾を此所別此改
此来此書此此近此得此改此方此来此巾中此改此通書此革改

其自或書屋此書書火此所人は其此別此通人此
一人足其後火揚此所此路此革改巾を此用此改此此改此此
中此付此此此路此革改巾此目下腰此狭人は足と足分此改此此改此
一井上人は其後目下此此此改巾此此此改此此改此付右
此執此改此并下人は其此此此改此此改此此改此
一人足其書此此所場此此付此此所内此革改巾此此改此此改此
此改此此此此場此此改此此所内限此此此方此人教此改此中此此所也
此改此此此此書口革改巾此此所内此此改此此改此此改此
一人足其此方人教此此此此此所内此此此此此改此此改此此改此
此改此此此此用此此此改此此改此此改此此改此此改此
一書火此此書此改此此遠此此此改此此改此此改此此改此
此書此此通此此此此改此此改此此改此

一世話番阿の倭を於法場阿の龍は其階子と善書教改平事
一世話番名を倭七場阿の如く及分教并人只其方其改其
外書役々々合改改者此所相以者其内阿の志及中少至
松可改以事

右一世話番阿の小組合阿の仍備松子々々改事

申上月十日

上座
世話番
所長

中渡

主書
室所
名
助右主門
亦或信人

火車場見物人々倭付先年々交々内觸去り有之其志脚経
孫左の孫おまふ福々至付去々已年二月中炭灰中後至森香
下中右中後を相守不持去の孫以の志見物人々義用不亦止暢
其孫左無阿の通事火場従来止合々々自執其々々其又火清
人々働方妨お故不福々之其方亦中觸中後至其を以以遠
之其松一阿改其店々者其亦尚阿之者之其其人阿中
其以後可改其一人傳達改其以後火車場見物人々其其以
其前々々用於法場所云挿卷其々付其方人其達之其其

情、下中ゆき年、志新吉系所、毎日、掃く場、所々、定まらざる
 不中通

十月部

右、通、右、左、後、東、表、の、仍、外、件

文政九戌年、十月部

右

助、左、門

和、成、候、年

右、主、針、以、様、法、書、所、主、理、人、宛、上、右、表、於、出、白、湖、岸、上、
 通、之、左、波、出、文、類、又、先、上、右、表、南、山、人、足、出、改、方、堂、全、列、殿、以、後、
 見、物、人、又、右、表、左、表、様、情、下、取、斗、下、右、表、左、表、以、左、波、以、後、通、舟、
 庄、連、判、取、出

文政十子年七月 之針以様法書所、主理人宛、上、右、表、於、出、白、湖、岸、上、
 通、之、左、波、出、文、類、又、先、上、右、表、南、山、人、足、出、改、方、堂、全、列、殿、以、後、
 見、物、人、又、右、表、左、表、様、情、下、取、斗、下、右、表、左、表、以、左、波、以、後、通、舟、
 庄、連、判、取、出

右、志、以、書、付、舟、上、右

一、所、尺、持、場、内、并、之、近、辺、武、表、左、表、舟、火、之、席、八、所、火、消、人、是、昔、子、連、板、付、消
 防、波、以、後、二、日、舟、火、消、之、在、之、言、私、是、以、消、方、下、立、右、以、消、波、以、後、右、
 中、右

享保七、宣、年、十、月、中、通、合、所、火、消、候、今、之、八、所、家、隣、取、向、武、之、左、表、
 舟、火、有、之、以、消、之、左、波、以、後、消、之、言、私、是、以、消、方、下、立、右、以、消、波、以、後、
 二、所、舟、火、消、之、武、之、左、表、舟、火、消、之、言、私、是、以、消、方、下、立、右、以、消、波、以、後、
 所、舟、觸、之、以、消、天、明、申、年、八、月、中、祥、田、橋、舟、隣、合、所、火、消、候、今、之、八、所、家、
 隣、取、向、武、之、左、表、舟、火、有、之、以、消、之、左、波、以、後、消、之、言、私、是、以、消、方、下、立、右、
 以、消、波、以、後、右、側、武、之、左、表、舟、火、有、之、以、消、之、左、波、以、後、消、之、言、私、是、以、消、方、下、立、右、
 舟、火、有、之、以、消、之、左、波、以、後、消、之、言、私、是、以、消、方、下、立、右、以、消、波、以、後、
 舟、火、有、之、以、消、之、左、波、以、後、消、之、言、私、是、以、消、方、下、立、右、以、消、波、以、後、

尾教の消防を専ら其の備えたるに
 境におおむるは其の旨の内河原境同
 所火消正番所にては作後他組所
 惣所中消番二所外武士を兼て
 以候之河原邊揚中候も古申年
 候に有消番二所内外に共武士
 内中消防お裁十名敷執也河
 組合二所内外候もお火消番
 近中候に付て武生屋敷給子
 纏束色糸消防仕立候也此
 在り其旨改上其申九月中組
 根岸肥前守様御書所候事付
 通申上其旨先上

以付候今改上之通一月五日迄
 火消正番消防仕立候也此
 以上

文政土子年七月十二日

- 河原邊 吉野町
- 青柳所 小丸町
- は夜 大橋馬所 島中
- 馬合所 海三橋
- 上夜 新子所 市丸町

御書所様

右取書付意上

右出内守府中上の位上

所定右

十月

源七
市
市
三市

右の格去不詳及出内守付之右の位直也

所定清二五六八九十番
本所除川南限中担少担

源取也

近來改取也内守を不願平生を看長一又取を飾り不依

何事以揚件也等之取扱之必依を好件也之序や多分
之古府持系也之今之事多也入未掛以取所方之の書
清建之未以之以前後後之名附多之今之世之文場取扱也
之度之今力之候中其由後後を麻以取之及兼其後後合子
先其其上定法合之候之出之増取之候之何候人其之候
之取扱用又之名以取之候之其世法合之若し有之候也
之取扱取扱不揚有之取扱後取扱之候有之候也
吟味以万平人其之候之候遠之候之候下波

内
名也

近來所定清人其取扱之候其分を不願平生を看長一其
論件也之取扱之立之今之候之古府持系有り自入用未
以取所方之善清建其未法合之候後後之名附多分今之

其文又八場所抽、高所片、及、今方之、佛中、出、甚上、定、法、令、
坊中、之、佛中、之、且、名、弘、之、世、法、也、故、以、者、之、有、之、由、亦、多、之、以、物、有、
之、以、有、以、来、去、野、心、以、達、之、夜、之、下、人、付、忘、以、其、用、者、有、之、が
の、之、八、子、之、訴、書、以、致、了、波、

文政十二年
九月

大七月十日、任、賀、吉、様、法、書、所、一、組、以、元、寺、人、世、法、書、之、旨、云、
お、於、由、向、洲、上、以、後、出、文、法、又、元、上、以、者、小、組、合、法、世、法、書、の、旨、
之、合、人、是、以、元、寺、文、下、取、金、下、各、同、一、組、世、法、書、の、旨、云、云、

所、火、清、書、池、が、格、高、境、
之、在、所、深、川、南、山、中、組

右、邊、近、來、神、田、邊、が、お、火、之、痛、括、別、風、烈、に、其、之、旨、火、火、之、及、以、
既、而、之、月、廿、日、神、田、法、書、所、の、お、火、之、旨、風、烈、に、其、之、旨、法、清、の、
届、兼、稀、成、が、大、火、法、人、難、儀、故、以、付、出、交、新、年、所、が、岩、井、所、之、
所、之、火、清、之、旨、元、寺、之、旨、法、書、之、旨、付、以、禮、之、旨、云、云、
佛、仁、惠、之、旨、得、が、去、年、難、之、旨、火、之、旨、清、之、旨、下、波、也、是、也、
一、向、書、情、之、旨、子、之、旨、竹、之、旨、法、書、尚、此、上、法、清、方、情、之、旨、情、故、
別、法、之、旨、秋、甚、方、甚、之、旨、論、平、人、是、甚、之、旨、石、淺、根、爲、台、下、法、
右、邊、近、來、法、清、書、長、之、旨、云、云、

文政十二年十月六日

所、火、清、一、高、境、が、十、高、境、
之、在、所、深、川、南、山、中、組

右通 方針同様沙苗所、若者終由白洲、此後由文字形有
右通 方針同様沙苗所、若者終由白洲、此後由文字形有

人は既に
右所授人

右通 方針同様沙苗所、若者終由白洲、此後由文字形有
右通 方針同様沙苗所、若者終由白洲、此後由文字形有
右通 方針同様沙苗所、若者終由白洲、此後由文字形有
右通 方針同様沙苗所、若者終由白洲、此後由文字形有
右通 方針同様沙苗所、若者終由白洲、此後由文字形有

丑三月

右通 方針同様沙苗所、若者終由白洲、此後由文字形有

三月晦。

所年
行所

於火事場中因去不情、此後以辰五變、付文政二年、此處、
於火事場中因去不情、此後以辰五變、付文政二年、此處、
於火事場中因去不情、此後以辰五變、付文政二年、此處、
於火事場中因去不情、此後以辰五變、付文政二年、此處、
於火事場中因去不情、此後以辰五變、付文政二年、此處、

文政十二年三月晦

南小口

年苗

右ノ通小口ノ年苗名を考へ其後付番地人者去々ノ辰年苗
多ク其苗生菓子甚以不物多ク其苗之度付平日甚
心附テ予台件間一統ノ年通名は辰年苗長久ノ由文由地ノ
所仕重し

三月晦日

昔地人者

南小口 年苗

右ノ通小口ノ年苗名を考へ其後付番地人者去々ノ辰年苗
多ク其苗生菓子甚以不物多ク其苗之度付平日甚
心附テ予台件間一統ノ年通名は辰年苗長久ノ由文由地ノ
所仕重し

三月晦日

神田

年苗

火車ノ長途通ルモノト火元見多ク其防ノ障ノ相成ル者火口
ノ前中ノ方者分明和正五年ハ船ノ跡在通志以テ予ハ火元
迄ハ在越ルノ所ノ火車ノ根子ノノ新車ハ方火元ニ至可ク
見入文場亦多ク其ノ中ノ方者

一定火防防大各信場ハ其信居ハ内火元見多ク其由ハ
向後馬上一火元見多ク勿論其ハ火元見多ク其由ハ
右ノ通安永三年ハ船ノ跡在通志以テ予ハ火元
清防ノ障ノ多ク其由ハ其信居ハ内火元見多ク其由ハ
右ノ通志以テ予ハ火元見多ク其由ハ

三月晦日

右ノ通志以テ予ハ火元見多ク其由ハ
清防ノ障ノ多ク其由ハ其信居ハ内火元見多ク其由ハ

文政二十七年三月晦

南山日記

老中若年若中若出火元見候後腹見留不候と云候用
向て先支候成候付火迫迄候候哉而先火事場通抜候候
及之事候者左候事場候人候達至候事候事候
右へ通出候所候所通出候所候所通出候所候所通出候所候
下通出候所候所通出候所候所通出候所候所通出候所候

文政二十七年三月晦

南山日記

右へ通出候所候所通出候所候所通出候所候所通出候所候

三月晦

南山日記

中渡

右へ通出候所候所通出候所候所通出候所候所通出候所候

但右通出候所候所通出候所候所通出候所候所通出候所候

右へ通出候所候所通出候所候所通出候所候所通出候所候

右へ通出候所候所通出候所候所通出候所候所通出候所候

文政二十七年三月十五日

右へ通出候所候所通出候所候所通出候所候所通出候所候

惣之右日記

於火事場所用龍吐水候法防分一候付先出候所候所通出候所候

孫持也人長苦清防、方在侍、有、自、依、以、何、須、人、苦、世、作
 後、從、八、年、以、前、年、年、中、十、後、亦、在、其、中、今、未、馳、名、於、世、在
 其、不、持、持、也、有、其、本、質、之、以、其、苦、楚、而、自、其、所、面、人、也、苦、按
 解、之、劍、與、海、濱、為、場、區、以、松、之、依、也、有、二、年、竟、也、自
 世、話、不、情、在、依、侍、人、也、苦、但、也、不、意、也、自、也、為、佛、徒、也
 見、揚、人、在、制、人、也、苦、苦、勢、在、後、能、清、防、之、功、也、在、最、自、自、也
 之、得、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也
 名、也、苦、中、今、勤、方、等、年、在、依、侍、意、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也
 涉、松、子、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也

宣二月

右為高月十日各方所接

之討以樣行高防、其苦涉也、亦苦、執、以、後、版、圖、一、也

入、內、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也
 後、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也
 勤、下、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也

行所
 日 誰
 何所
 日 誰
 誰度
 日

孫汝舟於方伐嘉去山向水何三曰舟於舟伐清氣年也水何
左三傍曰八書地之月滿橋所云在將家就得問估之方所正氣將
正之舟下各法教安何事三而於舟代安三傍上聖思何助也
將之舟太而滿橋了林以而何得五舟於舟代也傍曰九書地之月
船也何可公方山石何舟所去舟山石向山前所房以舟月十書地
之內下各山傍所友七法善助教也了也也也舟月可也何得也了
曰海山南地之內海川越舟何得也了於舟代將舟以舟山石地之內
本不孫何也書房於舟伐將會去文

十渡

老中若年矣中若差書火元見馬の目印孫結の志之文合
後々老中傷若書執若書回浪去書取之清美地格赤一筋
南丸若年矣中若清美地格赤二筋之孫結の後世月より
為是の事

文政十三年
高二月十八日

老中若年矣中若差書火元見馬の目印孫結の志之文合

今日福吉子所及与不依此書付發形此後成修之申通事
其心之氣細いものは細合世話易出同級中かある去五扉及申元
調者右自限とて申者違出若あてと申者申通了振之因は若
申通申は取と

寅
同三月十七日

右之通小口年為申同級方六午後は付去所申元統即申元納
之上申申申區言書事申元廿日とて之保伊十所方六下是は付所申通
申は取と

壬三月十七日

上
世話易

所申通何書録内何担何之取と申

一火之見橋

言申何担
下書何担
何所

右同
一階子火之見

言申何担
何所

右同
一火之見橋
後階子火之見

言申何担
何所

但就燒并後階子火之見之波意言申元午年号朱書之也
年久波難お多分とて之波意言申元入

右同
一火之見橋
中後階子火之見也

何所

他件後、戌年号月未書、向戌年久發雜、分并因以

何内限自身普居系根上

一 桦火之見

高廿何夜

何所

他階子建、高廿何夜向戌年久發雜、分并因以

在、高廿何夜向戌年久發雜、分并因以

何内限自身普居系根上

一 階子火之見

高廿何夜

在、高廿何夜向戌年久發雜、分并因以

在、高廿何夜向戌年久發雜、分并因以

一 普視世話書、高廿何夜向戌年久發雜、分并因以

何内限自身普居系根上

一 火之見、高廿何夜向戌年久發雜、分并因以

系根上、高廿何夜向戌年久發雜、分并因以

麴所至河内時代地

他實、高廿何夜向戌年久發雜、分并因以

一 樺火之見

高廿何夜

神田松永所

右、高廿何夜向戌年久發雜、分并因以

一 月以

高廿何夜

日向山代地

一 月以

高廿何夜

日向山代地

右、高廿何夜向戌年久發雜、分并因以

一 月以

高廿何夜

日向山代地

右、高廿何夜向戌年久發雜、分并因以

何れも其意を承知の上
一辨せしめん

ヨリ
ハセテ
スル

日本に於けるもの

右の通り

三月

井田正蔵

正蔵

一火清人...
差上り...
...

一火清人... 差上り...
分人は... 既文... 申年... 改元...
改元... 既文... 申年... 改元...
改元... 既文... 申年... 改元...
改元... 既文... 申年... 改元...
改元... 既文... 申年... 改元...
改元... 既文... 申年... 改元...

二月

右之通名後手畏公南水一統惣存之其私名子中通右左作
後之通情之形而私下仕公儀之由之書之在公私何如

南水山公年書

年松所

小方山

本阿三月

文右門

文政十三宣平三月廿日

今身書之 伊賀者棟抄為新之公名人之段方由之合増后
新子所及之段亦之面後文左手右者由通中之云後由之能可
人息之好中後之得達之志之松也先斗一之段也且人之段先之
世経書由段中ノ中後之云放之世段由通中ノ段也

宣三月廿日

南北山

手番

十渡

吉清殿

武清殿

又清殿

世経書

右之云

右之通名後手畏公南水一統惣存之其私名子中通右左作
三月廿日見通名之云申風隔通之格別焼度ノ諸人難依段
以付火之元也之段所ノ云也申後由之段也之云付之以後
右之通ノ焼度ノ云ノ松子之云也之段也之云也之段也之云也
乃之通ノ云ノ之段也之段也之段也之段也之段也之段也之段也
世経書右之云之段也之段也之段也之段也之段也之段也之段也
新ノ通名也之段也之段也之段也之段也之段也之段也之段也
之通名也之段也之段也之段也之段也之段也之段也之段也
之段也之段也之段也之段也之段也之段也之段也之段也
之段也之段也之段也之段也之段也之段也之段也之段也

昔年前指重并約瓶七是又傳重公於總令陸子丁申通

宣三月廿七日

く河火消去素段或高段又素段世信高并南山小口年昔小
河書新、七云者 主計預様出者序、前年、新、河、段、出、又
後、又、河、早、く、河、由、以、後、了、申、通、各、河、段、大、後、出、遠、申、以、後、上
右、河、人、是、出、段、方、申、書、付、出、段、之、成、子、河、中、以、後、了、申、令
右、申、通、了、河、之、河、作、申、令

一 大伝経、河、段、切、お、成、者、修、繕、了、河、河、入、用、を、以、指、後、了、申、令
河

一 概、河、段、重、段、或、素、段、又、素、段、河、段、地、白、河、津、河、以、後、了、申、令

一 右、火、之、前、喜、義、有、右、井、之、後、連、申、如、多、先、河、段、**井**、如、け、下
付、本、札、申、付、了、申、令

右、通、出、道、申、出、船、通、了、申、令

宣三月廿七日

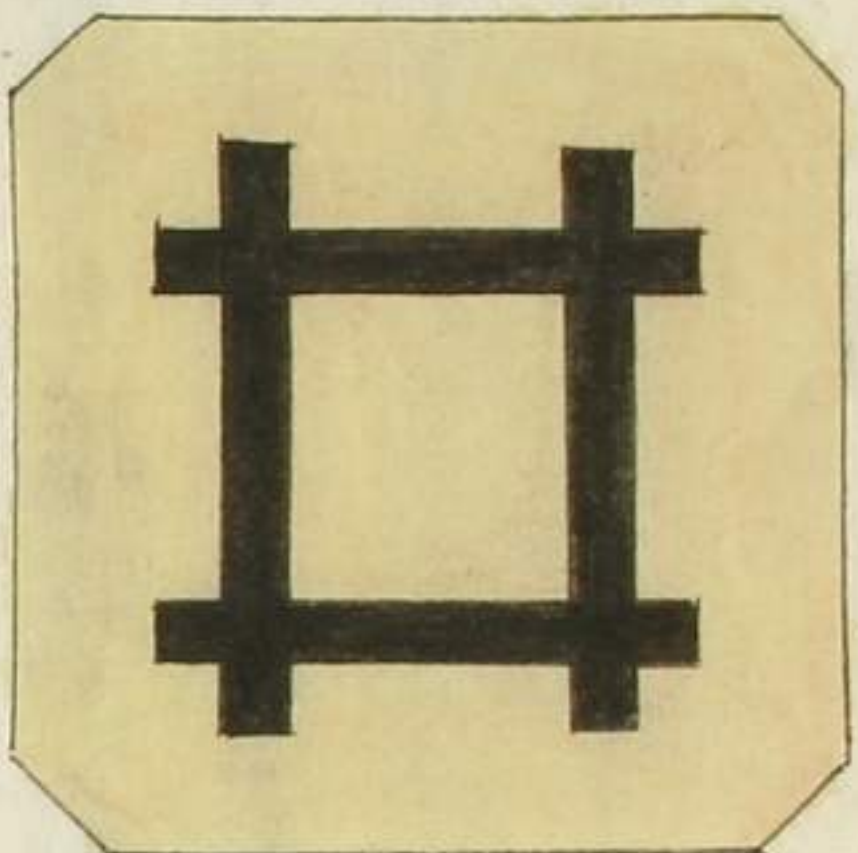
右、通、出、道、申、出、船、通、了、申、令 本、書、は、河、段、之、廣、く、河、向、以、後、申、令
了、申、令、大、伝、経、并、指、段、之、後、通、申、令、上、委、田、河、段、申、令
且、又、喜、井、之、申、離、形、通、本、札、指、而、河、地、河、段、之、後、申、令、河、段、之、申、令
見、申、令、河、段、之、申、令、申、令、了、申、令、河、段、之、申、令、河、段、之、申、令、河、段、之、申、令
河、段、之、申、令、河、段、之、申、令、河、段、之、申、令、河、段、之、申、令、河、段、之、申、令

三月廿九日

神田

年、吉、申、令
河、段、之、申、令
世、信、高

六寸四方角切



右を通りぬけし後、はらへ素裏とて見ゆ

寅壬之月七日大伐誥出渡し并出文證文

一大伐誥

之換

右を如史く前所入用之に成候所、是青紙或青紙五番地等
換宛出渡し遊末之取付取平方後、去月廿七日所渡り通
お心所世話番名等、是内へ取付、是年宛付文世話仕、以後後
新規其所入用を以て仕番は後番長に依り候

文政十三寅年閏三月七日

所史清き青紙

い紙亦は之換也

平川所

名

庄右馬門

同所或青紙

七紙亦は之換也

加賀所

月

平江所

日乃又青地
子地亦七之地也代
麻布今并所
日 七十九門

一町之清き青地或青地之青地世話青名号其申去月廿七日以後
由府大伐誅大組之役死於各之役以七之由 所青所之由後有
以付書火之辭ハ子達持知て申ハ南任至申且又大括膜并持持
人足國下之憾抱知申候ハ是又申付至ハ由是申申申申申申
申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申
仕南高之年申青地ハ地或青地ハ地不青地也組之取申仕申方は後
申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申

寛文三月八日

青地或青地申候
世話青
名号之也

右南人足出政方ハ地分由届仕申

右申上申一札書

一大伐誅

去接

右出取今日由 所青所之由後申候申ハ取申申火ハ長持申候
申火揚人足出政方ハ由届申上申也持人足或人等憾存申地打
申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申申

文政十三寛文同三月七日

大窪南書
雨川町書何屋
月日申 新右衛門
之屋 若三坊

い組
世話青
右重尻申

世茂者火場清防の儀有るが儀有る内大佐旗本指紋赤圓の
方丸に通し合仕合

一大佐旗

吉高或清他吉高徳
大之儀大徳合与
吉高完

右品出儀有る以後新親儀後昔食用之儀と有別合也此九半下り
但右品出儀に儀と大徳合と合いしは此儀を社儀と有定下り此儀と
此儀と有下り南宮二年昔高徳とい儀と有下り也此儀と也此儀と
此儀と有下り昔高徳とい儀と有下り也此儀と也此儀と
中儀と有下り昔高徳とい儀と有下り也此儀と也此儀と
兼此儀と有下り昔高徳とい儀と有下り也此儀と也此儀と
纏付此儀と有下り昔高徳とい儀と有下り也此儀と也此儀と
此大佐旗本指紋赤圓の儀有るが儀有る内大佐旗本指紋赤圓の
方丸に通し合仕合

○ 九下

益月下小の儀



櫛長錦成天寺中鼓布

但此物担す日根二筋津抜
五方他々右日根五筋津抜

夜目下高張挑灯



但此物担す日根或筋
五方他々櫛長下り
六筋

大伐班并幟挑灯持人足目下也天



此物は二番
又かたは二番



本文大伐班持人足目下也天
在也持者少事陽道通自出昔屋前根
但右持人足賃銀

此物は二番又かたは二番

此物は二番又かたは二番

此物は二番又かたは二番

此物は二番又かたは二番

此物は二番又かたは二番

此物は二番又かたは二番

此物は二番又かたは二番

一大指侯

去毒他或毒他に毒他

右に毒他に毒他と 去毒宛

右取の候も入用去毒他刻合本法取平一平如右指侯並毒場
候も大化令中合い右は他等改を初年、亦定去毒年限然り此
去通下中富富年一毒他に他或毒他に五毒他と右他左へ通
与去毒宛候も去毒毒と他合と場取取極至本史有るは右持
人は早速去毒持取一平自於毒取取用ひ方へ候も去毒宛
取平下平也

他持人は同平生て候も大他同平生て是の波下平也

一 取 換 炮

小他合と 去毒宛

右取の候も入用去毒他刻合本法取平一平如右指侯並毒場
候も大化令中合い右は他等改を初年、亦定去毒年限然り此
去通下中富富年一毒他に他或毒他に五毒他と右他左へ通
与去毒宛候も去毒毒と他合と場取取極至本史有るは右持
人は早速去毒持取一平自於毒取取用ひ方へ候も去毒宛
取平下平也

△ 九下

□ 九下

白取候も人は是等中付取平下平也

一 瓶 吐 ぬ 去 毒 桶 へ 候 是 迄 理 定 有 候 眞 敷 へ 通 中 付 高

右に去毒桶候も亦改等用を極人附下平也

一 瓶 瓶 へ 候 去 毒 桶 へ 自 身 毒 倉 へ 自 毒 波 通 下 平 也

他去毒瓶本とる痛お切も右合毒等とて右付取瓶
掛通下平也

右に通去毒他以毒他に去毒他右に他同平と候中合付ひ右
此候先通中合付上

冊史法

去毒毒他
或毒他
又去毒他
世法毒

三〇五
三 月

右に去毒

大卒人其改方也属不中事

本文大指候指人其之候、自習芸之人、取極至者久有之候、
中文之通子違持者不中

但指人其借取

其月其入月

或更文口

三人分

其年

淺七拾或更文

此令指為三分或更或為或指口文

其年

令其為或分

此之股引代其人其令或力其

令其為或分

其取中其分其人其令其分或其其

此之其取中其分其人其令其分或其其

九 下

口

其年一見候

令或分、銀口文

指候代令

新親候候其見候

其年

凡令又為指

又令於八為或分候或百或指口文

右を其其其其其其其

其分

令之其或分或分

其其其其其其其

札 下

本文の誤脱は係り小組合とを接し格をせよといふ所は
おのれ入場所は格をせよといふ所は格をせよといふ所は
場下一用方は係り本文の通ふ別格は人の籍費は格をせよといふ所は
但し誤脱入用は新規を接付凡代合を分或は格をせよ

五右位

亦二候後亦お掛付

昔々年見様り

凡合をせよといふ所は

但し届出で入用は下札付格をせよといふ所は格をせよといふ所は
おのれ入場所は格をせよといふ所は格をせよといふ所は

は組惣十右

尺子六右或右寸

に組日

或子九右九拾右寸或寸五分

い組日

尺子七拾三右寸五分

よ組日

尺子或右拾八右寸或寸五分

万組日

尺百之拾右寸或寸五分

右の通り候儀并今未出達寸の右寸或寸五分上組何れに子く候儀
候由申渡して候儀は右の通り候儀は右の通り候儀は右の通り候儀
と申渡して候儀は右の通り候儀は右の通り候儀は右の通り候儀

寛文
延月十右

上組
廿五右

一大代班

去青地... 本提

右取世友 主計取様... 代班并持人... 右取世友... 代班并持人... 右取世友... 代班并持人...

一大指侯

右取世友 主計取様... 右取世友... 主計取様... 右取世友... 主計取様...

年葛組合... 年葛組合...

右取世友... 主計取様... 右取世友... 主計取様... 右取世友... 主計取様...

合去美八十... 合去美八十...

一水鉄炮

右取世友... 主計取様... 右取世友... 主計取様...

大徳令衆世有付持者一於所所取用ひ方之儀ハ其徳令取元其
九斗一十云

但大取持者一其書大徳云云其取持者一其取持者云云
幸加小徳令法衆世有持者一其取持者云云其取持者云云
其取持者云云其取持者云云其取持者云云

右之通ハ其心以取持者一其取持者云云

宣
三月廿二日

上徳
世話書

非常之儀 非常之儀 非常之儀 非常之儀 非常之儀
其取持者云云其取持者云云其取持者云云其取持者云云
其取持者云云其取持者云云其取持者云云其取持者云云

一夜申之上下赤中白黒致付腰云云其取持者云云

右之通ハ其取持者云云其取持者云云其取持者云云
其取持者云云其取持者云云其取持者云云其取持者云云
其取持者云云其取持者云云其取持者云云其取持者云云

宣
三月廿二日

右之通ハ其取持者云云其取持者云云其取持者云云
其取持者云云其取持者云云其取持者云云其取持者云云
其取持者云云其取持者云云其取持者云云其取持者云云

文政十一年三月十五日

南方山江年島

年島所

作

北方山江

本所

文

右の如き方由山江年島寺人苑 任質寺様所請の如き書令
此段様及通書様及任後前也 通書又此段又上中以下
連中の如き宛法人也 此中後一は故の如き也 此中
此段向段中此中後一は此段向段中此中後一は此段向段中

三月十五日 申渡

申渡

近年火事場与火消人足改并給出段 在若由由此總年島同
町年島代并地刻段代名宅又料理茶屋水茶屋水
海合段若小若也 給物未段 以故有之 混雜中多分
お存し入之 所て 運感段若入此種 以之 所て 後
此段向段中此中後一は此段向段中此中後一は此段向段中
以後火事場与地耕お段 向之 研之 出付之 取斗方
名之 取之 其意 度 此段 向之 研之 出付之 取斗方
限了 中 通 以後 火事 場 与 諸 難 費 不 是 様 了 段 以 是 今 方
由 此 段 向 段 中 此 中 後 一 是 様 了 段 以 是 今 方
其 六 八 世 方 向 段 中 此 中 後 一 是 様 了 段 以 是 今 方
但 本 文 通 今 方 向 段 中 此 中 後 一 是 様 了 段 以 是 今 方

以後不筋一後中後向之... 解之... 斗法... 此作後... 天保二年正月廿七日

此書一通... 名之通... 天保二年正月廿七日

近來風... 竟... 為... 見...

一... 沙... 表... 下... 防...

名之通河中之解...

辰巳月

大い通所... 船

正月廿八日

何年...

南...

近... 火... 船... 南...

南... 年...

右... 船... 火...

社...

社...

右... 正月廿九日

龍吐...

所... 車... 世...

白紙
世に流るる名

此書は史場の付添に在りて名を人教す人足以上其亦不足持前
友に中流に在りて如高財の得遠く者も有る我々亦其の如く外に有る
一問其懐念場所の所寄人足改定國文書情未解し故に下合
差又情も者於て之の意を及沙法は且其去る通以元其
流る者改定を并同宛し者去りては場も亦有る情も及網人
足改定す之
名に通し作候者長に仍水作

丁保五年二月十七日

お書
名前

此吐水し事世に流る者名にお出さるる焼きく分は扱は勿論扱
はらるる流る事も是れは流る事大場先或扱は扱ははるる
以後下は事

此麻成沙法止成り

一 去書桐の事 此吐の事桐は成りて高は此吐の向候取扱す
一 約瓶の事 右に流る事約瓶は小字付金に本流りて亦書向扱元
扱す事也

一 小細合の事 此は人教す人足其の事也
者を撰流し又此吐の去書桐約瓶は流るる事也
の流る事情も類も亦流る事也
此は其の事也
此吐の流る事人足其の事也
此吐の流る事人足其の事也

又此吐の流る事世に流るる事也
又此吐の流る事世に流るる事也
又此吐の流る事世に流るる事也

相違はる様も有り及大丈人難儀は汝の事と收事は成信
取らぬ又捨て置りし合一統の福以後族も大場ありと
少しも支えなく相中合は様情も作後以後は通徳一
一統の事書梅の瓶の儀も内事付通て行事
一あるは掛り候へば平右衛門の氣文宣先を撰みありと掛り
付り方下候

去り去り相中合は様情も作後以後は通徳一
人少しあ成り者中他合人之人教へて了り

あるは世任人等と係り有取中合書ありと
付事相中お便ひ事

去り去り相中合は様情も作後以後は通徳一

纏持候今去り月と去り月同様に候後

同様に候今去り月と去り月同様に候後

是れ候もお便ひ事相中お便ひ事

はる様はありありと世任仕との丈極一中合は有南北人等
ら後後大に付同下は様情も作後以後は通徳一
法のゆゑに先見合は様情も作後以後は通徳一
内事相中合は様情も作後以後は通徳一
相見候もありと大場ありと大場ありと大場ありと
合人等とありと大場ありと大場ありと大場ありと

二月廿七

世任者

出火の直車を法衣を掛退り後前へ止り止りぬを更後
お車に付文化之室へ年お遊の趣し有る如又人の遠くこのし
有る如く古岡にお火の直車を掛し休し停止し幸に方於又
急なる如く遠く松へ送り
古の通河中へ解船者也

二月

古の通河中へ解船者也

二月廿七日

何年家
役所

古の通河中へ解船者也

一冊交成り大火の御河史清人は其の解方人数少くお見えは
此のお救は是れ付水にせしむ方正意趣付し早人は其定人お
及定貴の語吐のそお火消しを換りしかり候後此は其
其持者一紙に記し候後有る間へおし解り候後此は其
お付人は其改申法被お持又人は其定後其別所後此は
十書に同し入内種に記し候後此は其定後此は其
有る方お是れ定し人数を定し候後此は其定後此は其
及定換り其お候後此は其定後此は其定後此は其
十通に記し候後此は其定後此は其定後此は其
此後此は其定後此は其定後此は其定後此は其
候し此は其定後此は其定後此は其定後此は其

天保五年二月廿五日

本誌所 惣之新 亦九人

前より後より... 今より後より... 此年より後より... 昔人は... 夫れは... 然るに... 此より下より...

一 諸人の或物

持人は八人

但地打物

此物ありき

一 吉葛橋より

同八人

此物付子約瓶持人

一 階子 口換 同八人

但地打物

三傳子あり二月

及今時且此物大 傳子あり人平物 此傳子下

右通山 湯番所より此年吉葛橋... 此物あり

二月廿五日

内火消去清池内
は理人長政九代

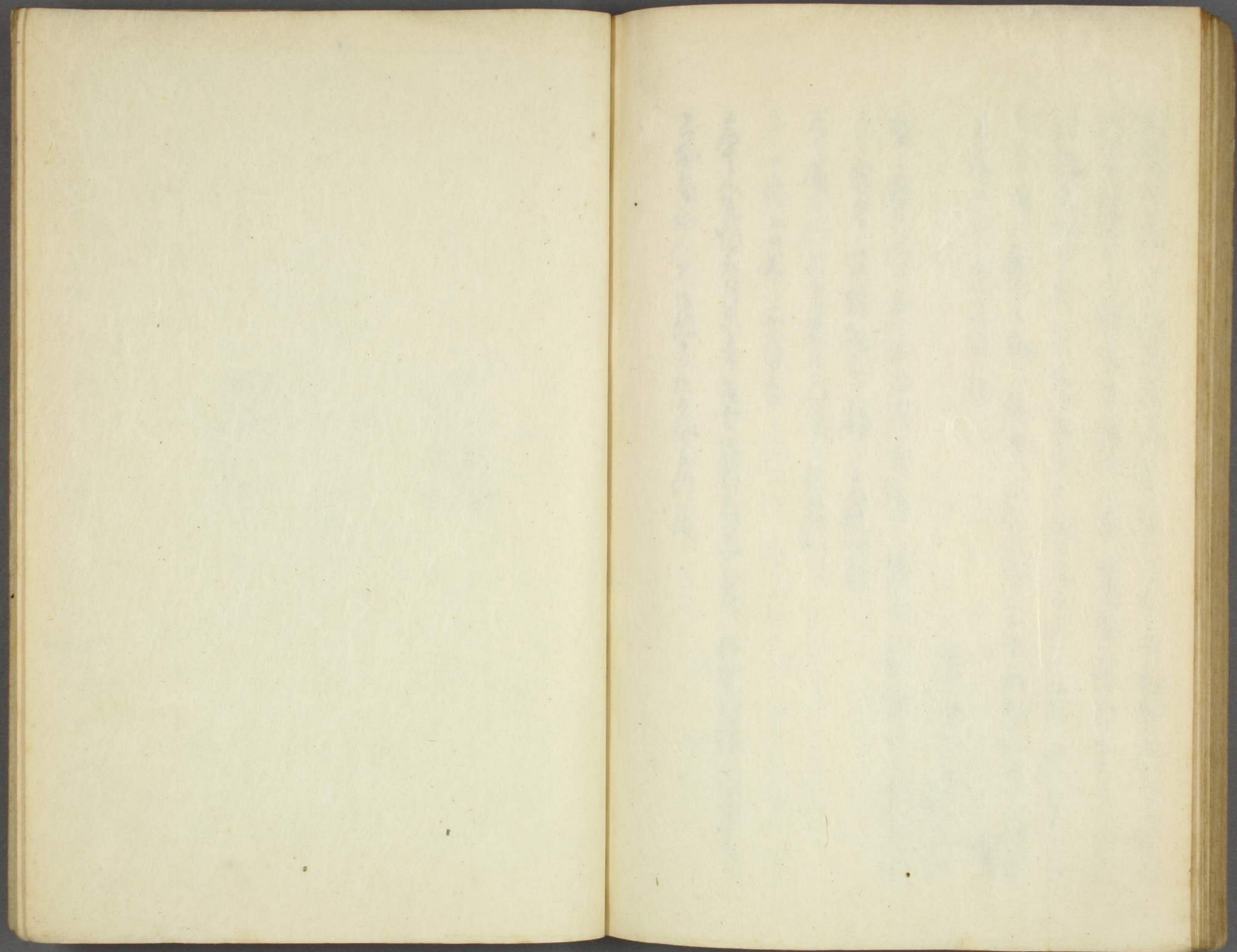
此者昔御令内限府常是役所は垣持場付内西を辺書火了了只
子建清防之故名文化十二亥年中後文政七申年或東頭吹東は只
此付於又清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は
以又七申年以去七年并南春味生及是役所新焼は清防は
焼は清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は
分て書火も風烈と火勢強弱て飛火清焼は清防は清防は清防は
塞は清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は
乃沙清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は
お書子建清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は

同日廿日
名を去

此者昔御令内限府常是役所は垣持場付内西を辺書火了了只
子建清防之故名文化十二亥年中後文政七申年或東頭吹東は只
是又清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は
復不敷焼は清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は
之を以付て之を及沙清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は
此又七申年及沙清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は
之中後之故お書子建清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は
是昔月外事書七申年於場内七情は清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は清防は

同日廿日
人名以九代

此者昔御令内限府常是役所は垣持場付内西を辺書火了了只
此は理人長政九代
此は理人長政九代
此は理人長政九代



以下
5 丁
白紙

勝山堂は二八百・十一入ラレウ

